第三者意見

高崎経済大学経済学部教授 水口剛氏

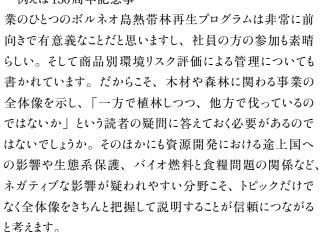
御社は、昨年に引続き、多くの外部有識者の声を聞き、 サプライチェーンの実態調査も継続されています。また、今 年新たに経営理念を改訂し、グローバル・コンパクトにも署 名し、150周年記念事業も始まる等、たいへん「やる気」 の伝わる報告書だと思います。CSRはすべての企業にとって 重要ですが、特に御社のような総合商社が取組むことには特 別の意義があると考えます。なぜなら、一方で商社活動は ネガティブなインパクトが大きいのではないかと社会から見ら れることが多く、他方で商社機能を発揮することでさまざまな 問題の解決ができるのではないかという期待も大きいからです。

商社のCSRで難しいのは、活動する事業分野が極めて 多様だという点です。世界中のあらゆる場所で、あらゆるも のを取扱うがゆえに、持続可能性に関わるあらゆる問題に 関係する可能性があります。水問題、食糧問題、資源開 発、生態系の保全、気候リスク対策、化学物質、途上 国・最貧国の経済発展、現地の人権問題等、商社と縁 のない問題はないと言ってもよいでしょう。直面する問題は 事業分野ごとにまったく違うはずですから、それぞれの事業 で最重要課題は何かを考える必要があります。その意味で、 全社共通の企業理念とCSR推進基本方針の下、具体的 な取組はディビジョンカンパニーごとにCSR 活動アクション プランを定めて行うという方法は適切だと思います。

もうひとつの課題は、全体像がつかみにくいことです。取 扱商品が膨大なこともありますが、取引ごとに影響力の及ぶ 範囲が違うので、どこまでが自社の活動の成果であり、また 責任なのかというバウンダリー(境界)の設定が難しいの です。売り手や買い手が実質的な決定権を握っている場 合から、事業投資のように御社自身が強い力を持っている

場合までさまざまでしょう。 しかしたとえそうだとしても、 問題領域ごとに全体像 をつかんでおくことは大切 だと思います。

例えば150周年記念事



一方、Highlightで紹介された太陽光ビジネスやプレ オーガニックコットンプログラム、機械カンパニーを中心と したウォーターフォーラムなど、多くの技術やノウハウ、企 業等を結びつけて問題解決につながるビジネスを生み出し ていく力は、伊藤忠商事ならではのものだと思います。熱 帯雨林同盟認定のコーヒー豆や「地球樹」事業、CDM 事業等、主要取組事例で取上げられた一つひとつに感心 しています。構想力と実行力のある有能な商社マンたちが、 「事業活動を通じて社会に貢献する」という御社のCSR の理念を世界中で実践し始めたら、いかに多くのことが実 現できるだろうかと強く期待しています。

CSR Report 2009 編集タスクフォースメンバー

- 繊維カンパニー
- ●機械カンパニー
- 情報通信・航空電子カンパニー
- 金属・エネルギーカンパニー
- ●生活資材・化学品カンパニー
- 食料カンパニー
- //
- 金融・不動産・保険・物流カンパニー //
- ●業務部
- 事業部
- ●広報部

- 新城 正受 今西 洋晶 細辻 享子
- 千村 裕史 三嶋 章夫
- 吉本 充弘 工藤 拓 福田 英昭
- 赤木 信太郎 鈴木 隆 早川 誠 山中 直樹

- IR室
- 海外市場部
- リスクマネジメント部
- ●人事部
- ●法務部
- ●総務部
- ●総務部 CSR推進室 // //
 - // //

渡辺 聡 山本 志乃

東條 陽十 大久保 康弘 太田 頼子 西山 照美

高井 通彰 桜本 朱美 雨宮 香織 佐藤 緋紗

中山 比呂子